

科目名： 言語表現（演習2単位）	担当教員名： 秋田 敏博	使用テキスト：出版社名・テキスト名 「声に出して読みたい日本語」
授業の到達目標及びテーマ： 児童文化を中心とした保育環境の展開のための自己の言語表現力の向上をめざし、実践につなげる。		
授業の概要： 児童文化の様々な表現における特徴を把握し、優れた言語表現にふれながら、子どもたちと共にその世界に遊べるよう保育者としての自己の言語表現力の向上をめざすとともに、子どもの興味や関心を深める実践法を探る。		
回	項 目	内 容
1	日本文化の特色と 言語表現について	言語表現への取り組みにあたり、日本の言語文化の特色と魅力について考える。 「実習での絵本に関する活動」の資料による学び
2	音読練習Ⅰ 滑舌の練習	幼稚園実習を控えて、音声による言語表現について実践する。 声の調子・高さ・速さ・繰り返し などの再確認
3	ストーリーテリングの 実践について	3歳児に合わせたお話の暗誦について 導入 内容 表現 速さ その他の必要な要素について考え実践する。
4	ストーリーテリングの 実践について	4・5歳児に合わせたお話の暗誦について 導入 内容 表現 速さ その他の必要な要素について考え実践する。
5	表情と台詞について －絵本とお芝居	登場人物も動き・組み合わせによって、どのような台詞が考えられるか考える。 その組み合わせによる物語の作成に取り組む。
6	表情と台詞についてⅡ －絵本とお芝居	前回の学習をもとに自分なりの絵本作成に取り組む。 登場人物の配置、台詞、物語としての流れを理解しながら進める。
7	音読練習Ⅱ 滑舌の練習	次の実習に向けて、滑舌の練習に加え、声の高低、話す速さ、声の調子によって伝わりかたに大きな違いがあることに気づき、学びを深める。
8	表情と台詞について －絵本とお芝居	これまでの実習から、絵本の読み聞かせからお芝居に発展させることを考える。 登場人物の動き・組み合わせによって、どのような台詞が考えられるか考える。
9	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、日本文化の伝統的な言葉遊びについて振り返り、自分なりの言葉遊びにつなげるように考える——いろはかるた
10	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、日本文化の伝統的な言葉遊びについて振り返り、自分なりの言葉遊びにつなげるように考える——新しいかるた
11	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、文脈の整え方について学ぶ。 文節のつながり、文脈のつながりについて考え、問題に取り組む。
12	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、日本語の豊かな表現の再確認をする。 四字熟語、ことわざ
13	文章表現について Ⅰ	描写文の例を参考に、自分なりの表現に取り組む。 言葉——文——文章 順序と構成について考える。
14	文章表現について Ⅱ	優れた文例をもとに、どんな表現が人を魅きつけているのかについて考える。 小品の中に見る表現の魅力を考える。
15	文章表現について Ⅲ 「自分を支える言葉」	これまでの学習を念頭におきながら、「自分を支えてきた言葉」について考え、発表することを念頭に文章をまとめる。何をどのように伝えるか。
	期末試験は実施しない	
参考書・参考資料等： 『縦横無尽の文章レッスン』 村田 喜代子 『幼児期』 岡本 夏木 『海色の三輪車』 パコダ幼稚園 『子どもたちと絵本』 長谷川 摂子 『子どもと言葉』 岡田 明 他 萌文書林 『絵本と保育』 梅本 妙子		
学生に対する評価方法： それぞれの課題に対する取り組み内容・提出物・まとめの小論文による		